



## 第1回運営指導委員会が行われました。

平成30年10月25日(木)第1回運営指導委員会が行われ、御指導・御助言をいただきました。



【運営指導委員会風景】

### 運営指導委員

上村 靖司 様	長岡技術科学大学教授
佐々木 彰 様	新潟原動機(株)技術センター主幹技師
阿部 淑人 様	工業技術総合研究所研究開発センター長
清野 実 様	新潟造船(株)工作部長

### 管理運営機関

長谷川 雅一 様	新潟県教育庁高等学校教育課 参事
藤澤 満 様	新潟県教育庁高等学校教育課指導第2係指導主事



【昨年度報告と今年度事業概要説明】



【エコハウス説明】



【ロードヒーティング説明】

上村靖司様に座長として進行していただき、運営指導委員と管理運営機関から指導助言をいただきました。

- ・ わかりやすいように教えているが、本当にいいのか？多少つまづきも必要なのかな？
- ・ SPH変容の数値化とSSHやSGHの場に出て外に行って発表してほしい。
- ・ 当初人材育成プログラムをやっているのに取り組みが先行していた印象があったが、取り組みがなければプログラムの開発はできないと感じた。先生と生徒の協働取り組みを要にして人材育成につなげてほしい。学科を横断した取り組みは良い。
- ・ 全科で対応している。分野に分ける有効性もあるが、分野を横断して対応しているのが良い。課題発見解決する取り組みは、高等教育でやることと思ったが、これを高校で取り組んでいる。卒業後70%が大学を通らず就職してスーパープロフェSSIONナルになるので、高校でも高等教育でやることに取り組んでいる成果を他の工業高校にも広めてもらいたい。
- ・ 課題解決方法もシステム→プロセス思考になってきている。
- ・ 改善・課題解決のプロセスがPDCA→OODAサイクルになってきている。(課題解決のスピード感)
- ・ 現場での溶接実習、溶接・ぎょう鉄溶接をやりたいという人がいる。造船の分野では自動化できないところがあるのでそういう人材に来てほしい。製造業に求められるものとして価格・品質・省エネがあり、日本のものづくりに求められている。スキルアップシートのようなものを企業でもやっている。
- ・ 科が多くスタートの出だしが遅く感じられたが、多くの取り組みをやっている印象を受けた。うまくいかないこと、ハウス組立で、すきまに対する即応力・対応力。トラブルを大切に次に反映して段取りは次どうしたらいいか？うまくいかないことを体験させる。グループで共有させることは良い。
- ・ 考える力を身につけさせるには教えすぎではダメなんだろう？自分で考えると力が身につく。不具合つまづきがないと自分たちの中で思考の幅が狭まる。トラブルに対応していくと思考の幅が広がる。プレゼンテーション(自分の意見を言えるようになる)反転授業のように習うより教える方が勉強する量が多い。
- ・ スキルアップシートの否定的な内容もSPH通信に載せてみてはどうか。
- ・ もっと外部に出していく。出力(発信)してほしい。